

配慮事項

- 道路境界部からできる限り後退するなど、周辺環境に圧迫感を与えないよう配慮した配置とする。

基準のねらい

- 山地や丘陵地においては、周辺の自然景観と調和したゆとりの感じられる景観づくりが望まれます。店舗や農業用の建物、倉庫、工場などの、1棟で大規模になりがちな建物については、道路に近い位置に建てると圧迫感を感じさせるため、配置を十分に検討する必要があります。

具体的な配慮のポイント

- 道路からの景観に配慮し、十分なセットバック距離をとるなど、周囲に圧迫感を感じさせない配置となるよう工夫しましょう。



山並みを遮断しないよう建物を道路より後退させるなど配慮しましょう。



道路からセットバックすることで、圧迫感が軽減されています。

配慮事項

- 棚田や河川沿い等の良好な自然景観が見られるところでは、本来の自然景観を阻害しない配置となるよう配慮する。

基準のねらい

- 棚田や山間部の河川沿い等は、他にはない独特の自然景観を形成しています。それらの魅力を建物により阻害せず、建物自体も美しい風景の一部となり得るような建物の配置が望まれます。

具体的な配慮のポイント

- 河川や水辺に隣接する敷地に建物を配置する際は、間に緑地帯を積極的に配置するなど、河川等の背景として見られることを意識した配慮が望まれます。
- 斜面地に広がる棚田等の周辺に建物を配置する際には、これらの生業景観を眺望できる道路等からの眺めを阻害しないよう、配置に留意しましょう。



河川と建物との間に豊富な緑地帯があることで、建物が自然景観と調和しています。



棚田よりも低い位置に建物が立地し、美しい棚田の景観が保たれています。

形態・意匠

配慮事項

- 周囲の景観と調和した建築スケールとなるよう留意した規模・形態・意匠とする。

基準のねらい

- 周辺から突出するようなスケールの建物は、良好な景観を乱す原因となります。周辺の建物や背景となる樹林地とのバランスを考慮し、違和感のないスケールとなるよう工夫する必要があります。

具体的な配慮のポイント

- 建物の高さ、大きさともに、できる限り周辺の建物のスケールと大きく変わらないものとし、周辺の樹林地などの自然景観とも調和させましょう。やむを得ず大きくなってしまった場合は、適度な分節・分棟を行うなど建物のデザインを工夫し、スケール感を軽減させるよう努力しましょう。



周囲から突出したスケールの建物は、良好な景観を乱す原因となります。

配慮事項

- 地域で景観の基調となっている伝統的な建築様式と調和した形態・意匠となるよう配慮する。

基準のねらい

- 赤瓦の屋根の家が建ち並ぶ集落など、特徴的な景観を形成している地域においては、その良好な地域景観を守り育てることが望まれます。

具体的な配慮のポイント

- 伝統的な建築様式の建物が集積している地域に建築する際、建物をその建築様式に合わせる努力が必要です。特に景観形成に大きく影響を与える屋根や外壁については、できる限り地域の特徴に合わせたデザインとなるよう配慮しましょう。



赤瓦の屋根の住宅が建ち並び、特徴的な景観が形成されている集落。



屋根や壁が伝統的な様式の建物に合わせたデザインとなっています。



伝統的な建築様式の建物が多い地域では、片流れやアール屋根などの近代的なデザインを採用すると全体の景観の印象が変わります。

配慮事項

- 長大な壁面等を計画する場合は、周囲に圧迫感を感じさせることのないよう留意し、通り等からの見え方においてボリューム感を軽減させるよう工夫する。

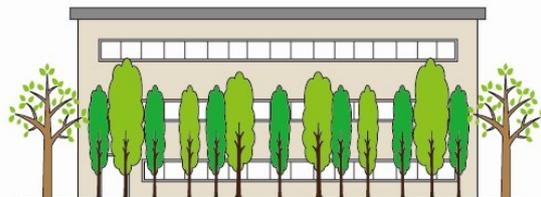
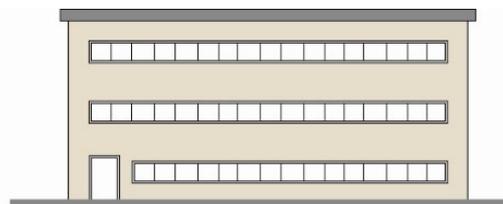
基準のねらい

- 店舗や農業用の建物、倉庫、工場など 1 棟で大規模となる建物については、単調で大きな壁面とすると周囲に圧迫感を与えてしまうため、デザインを工夫する必要があります。

具体的な配慮のポイント

- 中層建築物や店舗などの大規模建築物は、圧迫感を感じさせないよう、色彩や使用する材質を工夫することなどにより、ボリューム感を軽減を図りましょう。
- 工場や倉庫のようにやむを得ず長大な壁面となる場合には、道路との境界付近に植栽などの目隠しを施すなど配慮をしましょう。

建物を敷地境界から後退させ、道路との境界付近に建物を隠すように植栽を配置すると、圧迫感が軽減されます。



壁面をいくつかに分節したり、長大な壁が隠れるよう植栽を施したりするなどの工夫が必要です。

設備等

配慮事項

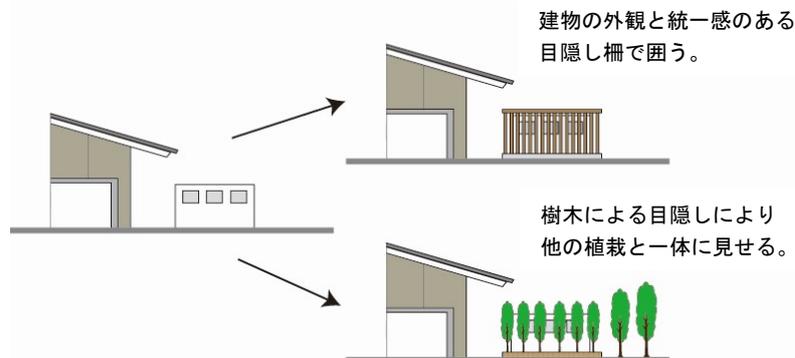
- 建築物等の周囲に設置する設備類は、道路等の公共の場から容易に目にするのできる位置には配置しない。やむを得ず設置する場合には、目隠し等の措置を行い、見苦しくないよう配慮する。

基準のねらい

- 空調の室外機や給湯器、各種配管、ゴミ集積所、プロパン庫等、建物に付随する工作物・設備類は、見た目が簡素で建物自体のデザインに調和しないものも多いため、良好な景観を阻害する要因となります。そのため、道路等の公共の場からはできる限り見えない位置に配置したり、目隠しを施すなどの配慮が必要です。

具体的な配慮のポイント

- 道路等の公共の場や周辺の高台など、建物がどこから見られる可能性があるかを確認し、できる限り見えにくい位置に設備類を設置するようにしましょう。
- 見える位置に設置せざるを得ない場合には、ルーバーや植栽で目隠しを施すなど、建築物のデザインでカバーする工夫を行う必要があります。また、周辺の自然景観との調和を考慮し、木製の柵や低木で囲うなど、できるだけ自然素材を用いた目隠しとするよう工夫しましょう。



建物の外観に合わせたデザインの柵や植栽で囲うことで、周囲の景観への影響を軽減させることができます。



設備を建物の色彩と調和したルーバーで囲うことで、全体的に統一感のある外観となっています。



【他都市事例】

設備を建物の外壁と調和した木製の柵により目隠しを施し、違和感を軽減させています。

配慮事項

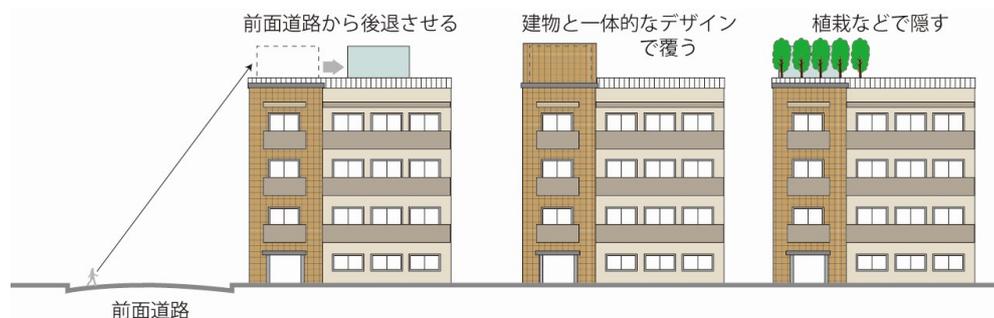
- 屋上等に設置する工作物や設備類は、周囲から見えないう工夫し、外観と調和した意匠となるよう配慮する。

基準のねらい

- 給水塔や空調の室外機、アンテナ等の設備を屋上に設置すると設備そのものが目立ちやすく、景観上好ましいものではありません。そのため、設備を屋上に設置する場合は、できる限り周囲から見えないう工夫することが望まれます。

具体的な配慮のポイント

- 屋上の設備が通りを歩く人から直接見えないよう、前面道路から後退させた位置に設置しましょう。見える位置に設置せざるを得ない場合には、建物と一体的なデザインのルーバーや壁面で目隠しを施すなどの工夫をしましょう。



前面道路から設備を後退させたり、建物の外壁と合わせたデザインで囲ったり、植栽などで隠したり、設備そのものが目立たないう工夫しましょう。

色彩

ここでは色彩に関する基本的な考え方のみを記述し、推奨色や避けるべき色など色彩計画の詳細は、「色彩計画の考え方」の中で記述しています。

配慮事項

- 周囲に広がる樹林地になじむ色彩となるよう、奇抜な色彩の多用は避ける。

基準のねらい

- 山地・丘陵地においては、主に樹木や土、空、水等の自然の色により景観が形成されており、その中に建てられる建物の色は、景観形成にとって重要な要素となります。建物に奇抜な色を用いると全体の景観の印象を崩すことにつながるため、色の選定には十分に配慮することが望まれます。

具体的な配慮のポイント

- できる限り自然素材を選定し、木や土、石などが持つ自然の色彩を用いて周辺の景観に溶け込むよう配慮しましょう。また、新建材を用いる場合でも、奇抜な色彩を避け、彩度の低い落ち着いた色のある色彩を用いるなどの工夫をしましょう。



奇抜な色を用いると、周囲の景観に影響を及ぼします。



落ち着いた色彩を使用することで、周りの自然とうまく調和させています。

配慮事項

- 地域で多く用いられている色彩との調和を図る。

基準のねらい

- 特徴的な建物の様式や色彩が多く用いられている地域では、その中に全く異なる色彩の建物が配置されると、それだけで違和感のある景観になってしまう可能性があります。そのため、できる限り地域の特徴と調和する色彩を選定することが必要です。

具体的な配慮のポイント

- 赤瓦や銀黒瓦などの屋根の色や外壁の色等に特徴が見られる集落では、外壁や屋根の色をできるだけ同様の配色とし、周辺の景観と調和させましょう。



赤瓦の屋根が特徴となっている集落。



周辺の建物の地域色と近い配色が採用されています。



地域色とかけ離れた色を用いると違和感のある景観となります。

配慮事項

- 屋根は外壁色と調和したものとする。

基準のねらい

- 屋根の色は、景観の全体の印象を左右する重要な要素となります。そのため、建物の中で広い面積を占める外壁色と調和させることが必要です。

具体的な配慮のポイント

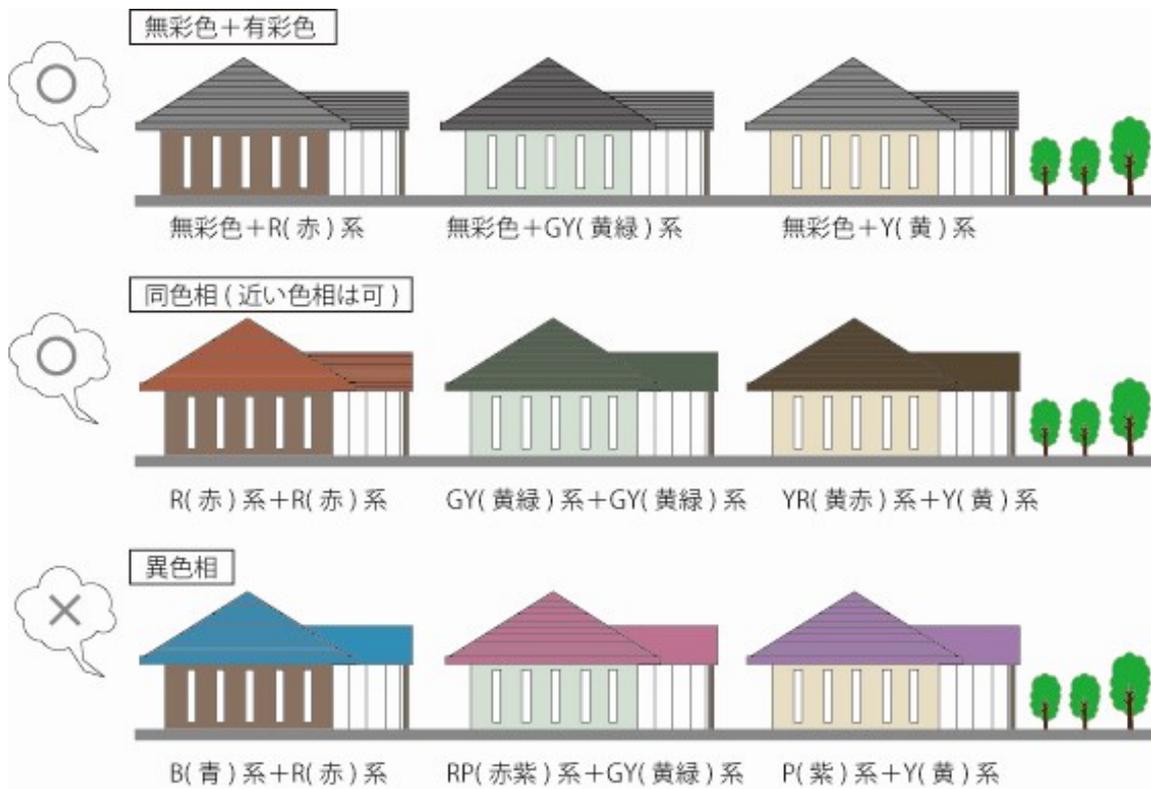
- 外壁色と屋根は、できるだけ無彩色と有彩色との組み合わせにしたり、色相が近い色の組み合わせにしたりすることが調和のポイントです。
- また、周辺の建築物の色彩とも調和する色を選択するとともに、背景となる山並み等の自然景観の中で建築物の屋根のみが目立つことのないよう、できるだけ彩度の低い色としましょう。



外壁、屋根ともに茶系色となっており、周辺の自然景観とも調和しています。



赤瓦が特徴の建物は、屋根と壁の色がYR(黄赤)系の同色相と無彩色の白との組み合わせで自然の色とも調和しています。



外壁色が同じ場合でも、どのような色味の屋根を選択するかによって、景観の印象は大きく変わります。無彩色と有彩色の組み合わせや色相が近い色同士の場合は周囲と調和させやすい一方、異なる色相同士の組み合わせは派手な印象になりがちで、自然景観との調和も難しくなります。

付帯する屋外広告物

配慮事項

- 節度あるものとし、奇抜な色彩・デザインは避ける。
- 掲示数は最小限とし、可能な限り設置位置を集約する。
- 屋上には設置しない。

基準のねらい

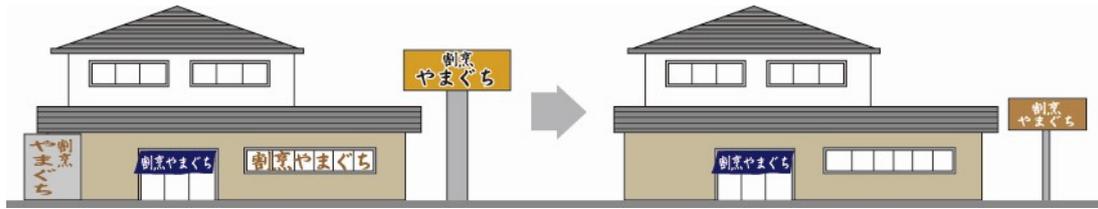
- 屋外広告物を必要以上に大きくしたり、派手な色を使ったりすると、景観と調和しないものになりがちです。特に山地・丘陵地においては、豊かな自然景観に雑然とした印象を与える可能性があります。そのため、屋外広告物を設置する位置、数、大きさ、デザインについては、周辺の景観に十分に配慮することが望まれます。

具体的な配慮のポイント

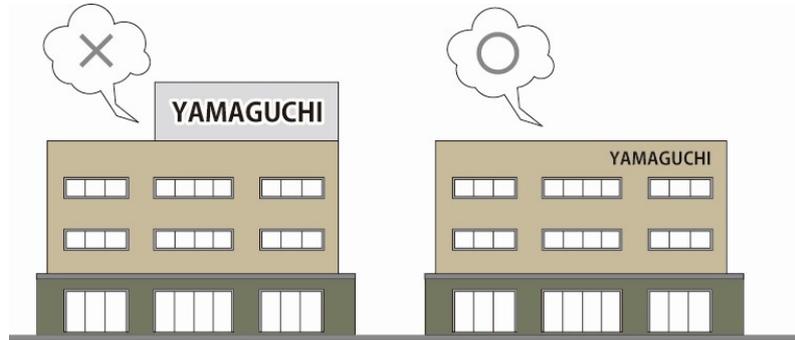
- 建物に付随する屋外広告物は、できる限りシンプルなデザインとなるよう心がけ、文字数や大きさ、色彩を工夫し、雑然とした印象とならないよう配慮しましょう。
- 1つの建物に対する広告物は、可能な限り集約し、表示面積も少なくなるよう工夫することが必要です。
- 屋上への看板設置は、広範囲の景観に影響を及ぼします。そのため、建物の屋上部分には広告物を設置せず、建物の壁面に設置したり、植栽とともに敷地内への立て看板とするなど、周辺の景観との調和に配慮した別のスタイルでの広告物を検討しましょう。



外壁に金属等の切り文字で施設名のみシンプルに表示したり、植栽と一体となった小振りの立て看板としたりすると、周辺の景観への影響が少なく上品にまとまります。



1つの建物に多数の広告物があると雑然とした雰囲気になるため、できる限り集約して、表示面積の合計も小さくなるよう工夫しましょう。



広告物は、屋上に設置すると目立ちすぎるため、外壁等へのシンプルな表示としましょう。

外構・緑化等

配慮事項

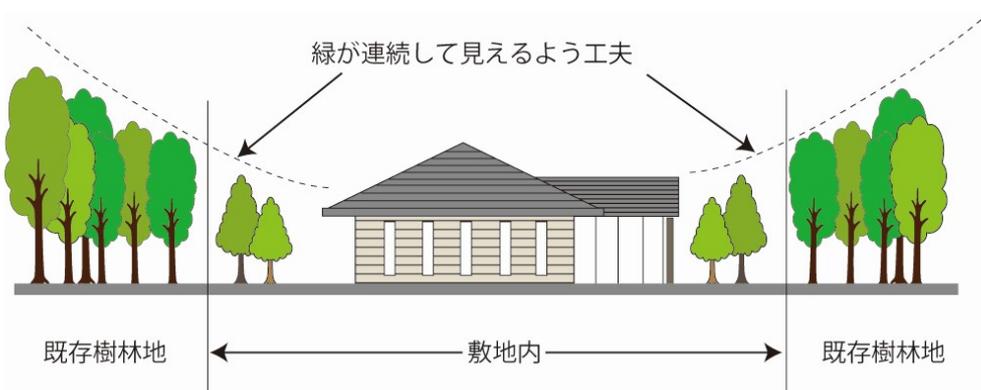
- 既存の雑木等をできる限り保全するとともに、周辺に配慮した緑化に努める。
- 敷地境界付近では、できる限り多くの樹木を植栽する。

基準のねらい

- 山地・丘陵地において、既存の樹木は、地域の重要な景観資源となっています。そのため、既存の樹木をできる限り保全し、敷地内にも積極的に植樹することが望まれます。

具体的な配慮のポイント

- 本来の自然の植生に配慮した樹種による緑化に努めるなど、山間部の豊かな緑の保全に配慮しましょう。
- 周辺に広がる緑の景観になじむよう、敷地境界付近への樹木等による植栽を行い、緑の中に建物等が立地している印象を与えるよう工夫しましょう。



敷地境界付近に植樹すると、既存の樹林地と敷地内の緑が連続しているように見せることができます。



敷地内にも多くの緑があることで、背景の樹林地と一体化しています。

外観照明

配慮事項

- ネオンサインやサーチライト等のような派手な照明器具や点滅照明は設置しないよう配慮する。

基準のねらい

- 夜間照明は、夜間の歩行や防犯上の安全・安心を確保するほか、店先の演出に使用されるなど、夜間の景観において重要な要素となるものです。しかしながら、山地・丘陵地においては、照明が派手になりすぎると、落ち着いた夜間景観を乱す恐れがあります。そのため、周辺に不快感や違和感を与えないような適切な照明方法を検討する必要があります。

具体的な配慮のポイント

- ネオンサインや明るいサーチライト等の使用は避け、できるだけ穏やかな照明を選定し、落ち着いた夜間景観を演出するよう工夫しましょう。(防犯等で必要な照明や祭り・行事等にぎわいを演出するために一時的に設置される照明についてはこの限りではありません。)
- 周辺に過剰な光が拡散しないよう、照明器具を設置する位置や向き、光の量や色の選定に留意しましょう。



光の量が抑えられた穏やかな照明が設置され、落ち着いた夜間景観が演出されています。



照明器具周辺にルーバーを設置し、光の量が過剰にならないよう配慮されています。

2. 開発行為等

造成等

配慮事項

- 地形を生かし、地形改変が最小限となることに配慮した造成に努める。
- 切土・盛土は最小限となるよう配慮する。

基準のねらい

- 開発等による大規模な地形の改変は、地域の景観を大きく変えることに繋がります。良好な景観の保全のために、できる限り大きな地形改変を避けることが望まれます。

具体的な配慮のポイント

- 斜面地における宅地造成等の一団の開発等の場合、極端な切土や盛土をせずに地形に合わせた段造成を行うなど、自然地形をできる限り生かし、地形改変を最小限としましょう。



地形を生かした造成により、良好な自然景観が保たれています。



大きな切土や盛土をしないよう、2段を3段の造成にするなどの工夫が必要です。

配慮事項

- 法面や擁壁が生じる場合には長大なものではできるだけ避け、周辺に圧迫感を与えないよう配慮する。やむを得ず長大なものとなる場合には、緑化等の措置を行うことにより、周囲と調和するよう努める。
- 擁壁等は、自然素材や景観に配慮された製品を使用するなどできる限り周囲の自然となじむよう配慮する。

基準のねらい

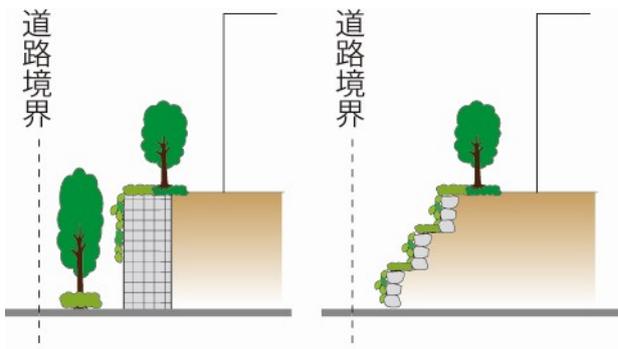
- 大規模な法面や擁壁は威圧感を与えるため、防災面など安全性が十分に確保されたものとしつつ、自然地形を極力生かし、できるだけ大規模な法面や擁壁を生じさせないよう工夫することが必要です。

具体的な配慮のポイント

- 法面や擁壁等がやむを得ず長大なものとなる場合には、簡素なコンクリートブロック等とせず、素材を工夫し、自然景観と調和した石積や緑化等による修景を行いましょう。
- 法面や擁壁は、冷たい印象となる人工的な擁壁等とせず、自然素材や景観に配慮された製品をできる限り使用するなど、周辺の自然景観と調和させる工夫が必要です。
- 擁壁等は、階段状にして段上に植栽したり、つる性の植物を這わせたりすると、やわらかい印象になります。



長大な法面が発生する場合は、自然景観と調和した石積や緑化等による修景が必要です。



擁壁の前面に植栽を施したり、階段状にしてつる性の植物を這わせたり工夫しましょう。



自然石を使った石積みや効果的な緑化により、背後の自然景観との調和が図られています。

環境保全

配慮事項

- できる限り、既存の樹林地を保全・活用する。
- 周辺の貴重な自然環境に大きな影響を与えないよう配慮する。

基準のねらい

- 宅地造成の際は、既存の樹林地をできる限り保全し、生態系にも十分配慮した上で、地区の貴重な景観資源として、積極的に修景に活用していく必要があります。

具体的な配慮のポイント

- 宅地造成による大きな地形の改変は、景観上、又は生態系の保全の点からも望ましいものではありません。やむを得ず造成する場合でも、既存の樹林地の伐採を最小限に抑え、伐採した土地にも積極的な自然回復措置を行うなど、景観や生態系へ配慮しましょう。
- 地域特有の緑がある場合は、これと調和するような植栽を行い、地域の生態系を積極的に守り育てましょう。



自然の地形が生かされており、建物群が自然
景観になじんでいます。



樹林地を保全し、建物周辺にも樹林地の樹種
と近い樹木が植えられています。



既存樹林地に隣接する敷地境界付近には、樹林地の樹種と近い樹木を植樹しま
しょう。